

小森耳鼻咽喉科医院院長  
小森 貴 先生御侍史

## 平成七年度舢倉島僻地総合診療実施報告書

平成七年九月四日

舢倉診療所 又野 豊

平成七年度の舢倉島の僻地総合診療は8月5日、6日の両日にわたり行われ、関係の皆様のおかげをもちまして無事終了することができました。ここに厚く御礼申し上げます。

本年度の実施状況を以下に報告いたします。

### 1. 日程、場所

平成7年8月5日(土) 午後1時～午後 6時30分

8月6日(日) 午前9時～午前11時30分

(外科のみ午前7時～午前11時30分)

舢倉島総合センター内の診療所、検査室、玄関フロア、2階会議室を使用して実施。

### 2. 診療従事者

医師4名

内科 : 栃本真一医師[輪島病院]

外科 : 高島一郎医師[有松中央病院]

眼科 : 山村敏明医師[穴水総合病院]

耳鼻咽喉科 : 小森 貴医師[小森耳鼻咽喉科医院]

看護婦4名(石川県立中央病院より)

事務職4名

石川県衛生総務課より3名

輪島市保健環境課より1名

計12名

### 3. 診療科

内科、外科(上部消化管内視鏡検査)、眼科、耳鼻咽喉科

#### 4. 受診状況

のべ受診者数(受診件数)は144人で、実際には74人の方が受診されました。受診日別、年齢別、性別の受診者の分布はそれぞれ図1、図2、図3の通りでした。

また年齢別の各科の受診患者の分布を図4に示します。

#### 5. 診療結果

各科の専門医の診察の結果、総受診144人中107人(74.3%)になんらかの所見が認められました。図5に各科の有所見者数を示します。

#### 6. 診療結果に対する対応

また診察の結果に対し各科の医師の方々より以下のような対応を頂きました。

内科：経過観察(内服の継続を含む)	11人
要精査	18人
要加療	3人
外科：要精査(同時に胃生検を施行)	6人
眼科：経過観察(定期的な診察必要者を含む)	17人
要精査	6人
いずれ手術が必要	4人
診察時に処方	20人
耳鼻咽喉科：経過観察	3人
診察時に処置施行	12人
診察時に処方	12人

#### 7. 平成元年から本年までの7年間の僻地総合診療受診者の変動

また平成元年から本年度までの7年間における各科の受診者数とのべ受診者数(総受診件数)の動向を図6、図7に示します。(平成3年度は実受診者数が正確に確認出来ませんでしたので省かせていただきました。)

## 8. 考察

### 総括

本年度は総受診者数が144人とここ数年では最高を記録しました。これは総合診療初日が、海が荒れて沖休みとなったために受診者数が増えたものと思われ、例年どおり受診者数の変動の一因である天候と漁の事情による結果と思われます。これは初日が夕方までセンターがいっぱいになるほどの大盛況であった一方でその翌日は漁があったため2日目の受診者数は胃カメラ以外の科では激減したことからもうかがえます。

また性別では胃カメラ以外では女性がやや多く、年齢別では60歳以上の方の受診者が半数を占める結果となりました。

平成年度に入ってから総合診療の受診者数の動向を見ると、実受診数はわずかに増加している一方で、一人当り受診件数は大きく増加している傾向があります。これは、受診者が一つの科だけでなく同時に他科も受診するようになったことによると思われます。専門医診療に対する島民の認識が高まってきたことに加え、一度受診した科に以後も受診する傾向がでてきて、総合診療という専門医診療というだけでなく年に1回の島民の総合健診というカラーも徐々に浸透してきたように思われます。

### 内科

本年もほぼ全例で血圧測定検尿、血糖測定、心電図検査を施行しました。その中で尿所見、心電図所見で精査を要すると思われる方がかなり発見されました（尿所見異常 9人、心電図異常 7人）内科受診者には毎年受診しておられる方も多く、毎年受診し、その中で異常が検出されることは極めて重要なことだと思われます。

なお本年も胸部X線は行いませんでしたが、場合によってはその場でも撮影が必要な方も若干おられたように思われます。今後必要に応じての胸部X線撮影も考慮すべきかと思われます。

## 外 科(胃カメラ)

本年の受診者は20人と過去最高で、2日目の朝7時の診療開始時にはすでに7-8人近くの方が列をついておられました。2日目早朝から胃カメラを実施することは本年も好評で、沖にいく前に胃カメラを希望される方が大部分でありました。

本年も上腹部症状のある人には強く勧めたり、各家庭で希望者を募るなどといった広告活動を行いました。それ以上に島民自身からの希望が多い状態でした。結果はなんらかの所見を有する患者が14人でその内の6人に対し悪性疾患除外の目的で胃粘膜生検を行いました。胃カメラの結果に対する受診者の感心も高く、胃癌検診としてますます定着してきたように思われます。

## 眼 科

眼科は本年も受診者が最高でした。視力検査、細隙燈顕微鏡検査、眼底検査などを行っていただいた結果、41人になんらかの所見が認められました。うち6人が要精査、4人が近いうちに手術をすべきとの診断でした。糖尿病患者や白内障などといった眼科疾患も多く、年1回の総合検診における経過観察は重要であると思われます。

## 耳鼻咽喉科

舩倉島が海女の島であるのを象徴するように、耳鼻科受診者は女性が大多数を占めました。内容も耳管狭窄症や中耳炎、外耳炎といった耳科疾患が中心でした。しかし喉頭ファイバースコープや聴力検査、副鼻腔X線検査なども行われ専門医検診としてかなり充実したものであったように思われます。

10年以上にわたり総合診療の耳鼻咽喉科を担当しておられる先生の調査と御尽力により、海女の耳栓が現在のシリコン製のものになって以来、島民の外耳道がきれいになったとお聞きしました。総合検診を通して疾病の1次予防が達成されつつある点は、島民にとって有益なことでもあります。

## 9. 終わりに

本年度はおかげさまで持ちまして、総受診者数がここ数年で最高という結果を得ることができました。これは島民の総合診療に対する意識が徐々に向上していることによるものと思われます。

また専門医診療により、日常の診療では対処できなかった疾患についても、的確な診断と対策を得ることができました。

島民の総合診療に対する信頼や希望も高まりつつあります。今後とも総合診療を末永く続けてくださるようお願い申し上げます。

図1 総合診療受診患者分布

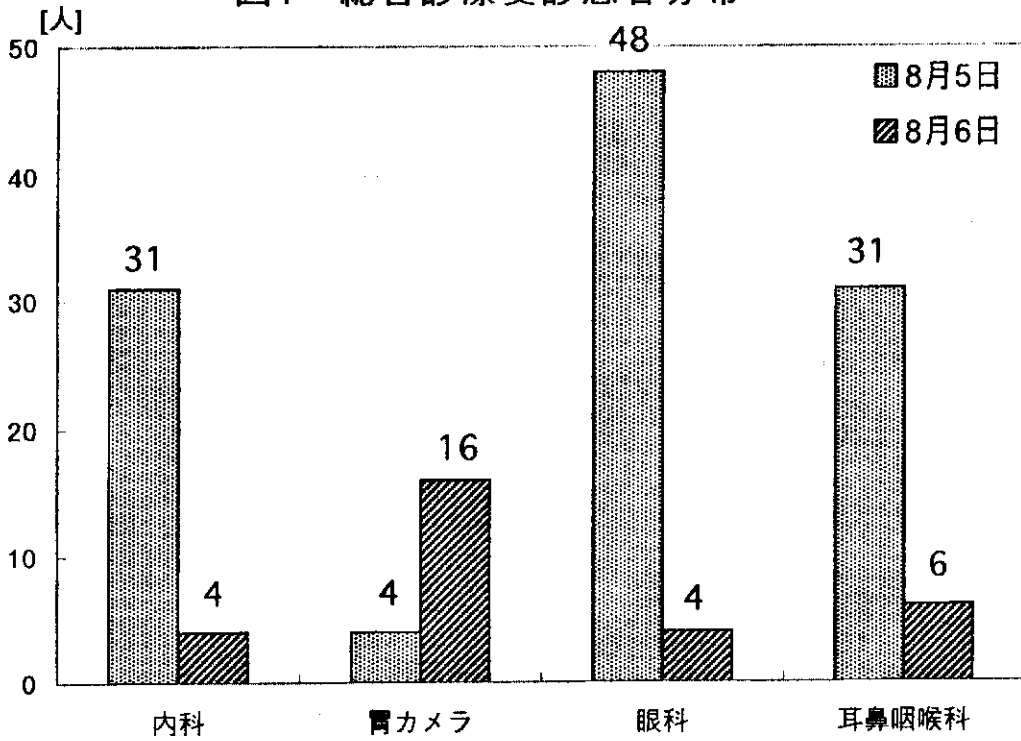


図2 総合診療受診患者年齢分布

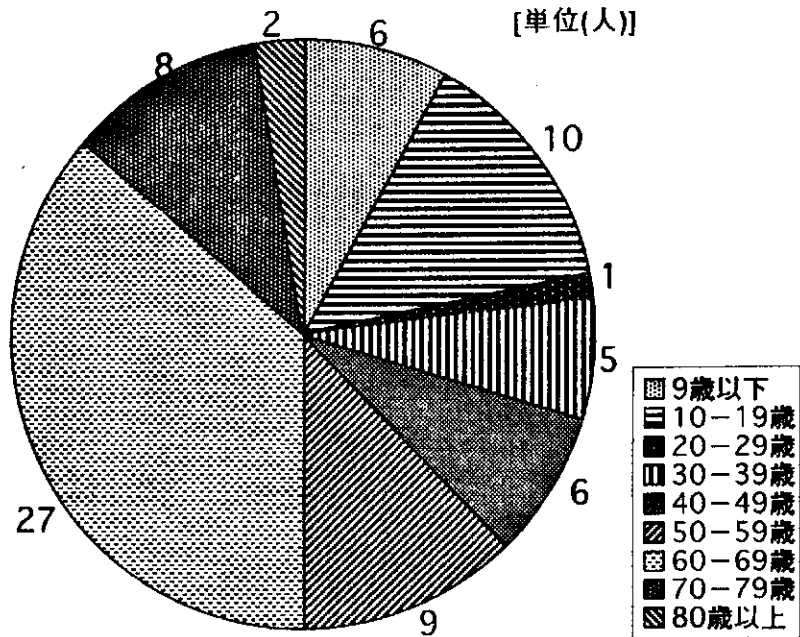


図3 性別受診患者数

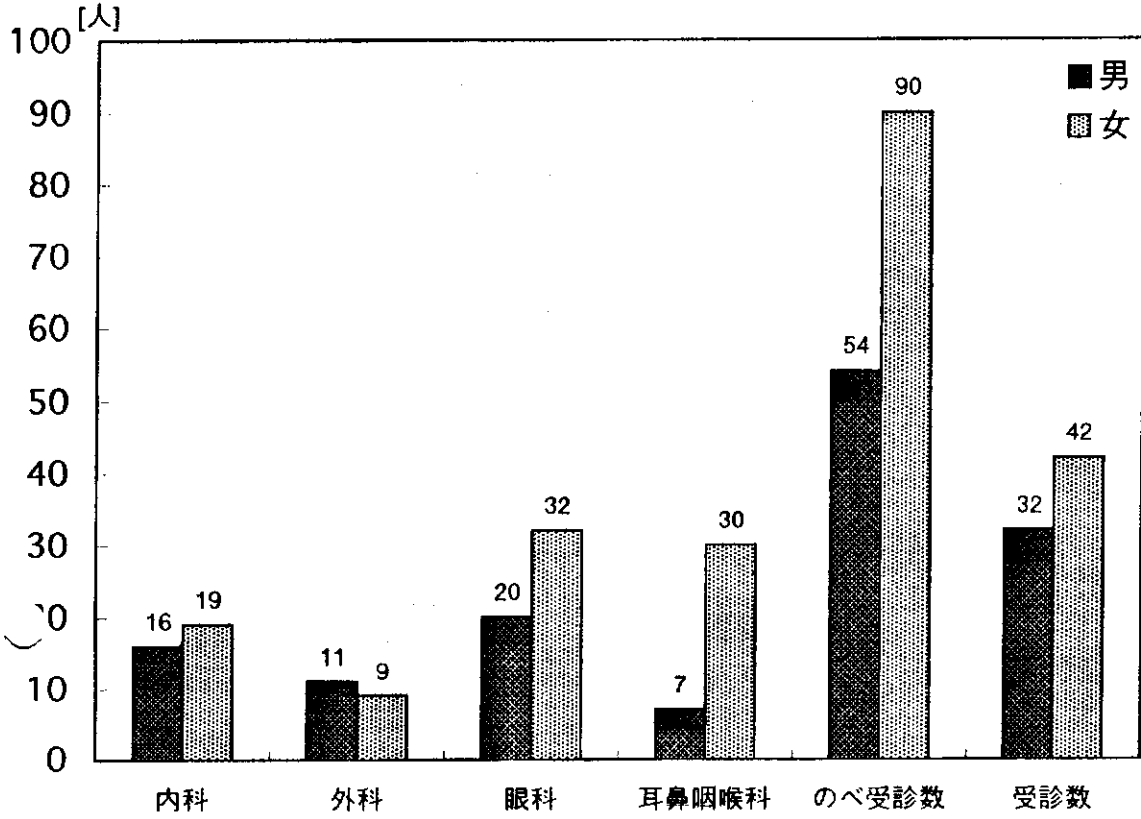


図4 年齢別各科受診患者分布 [単位(人)]

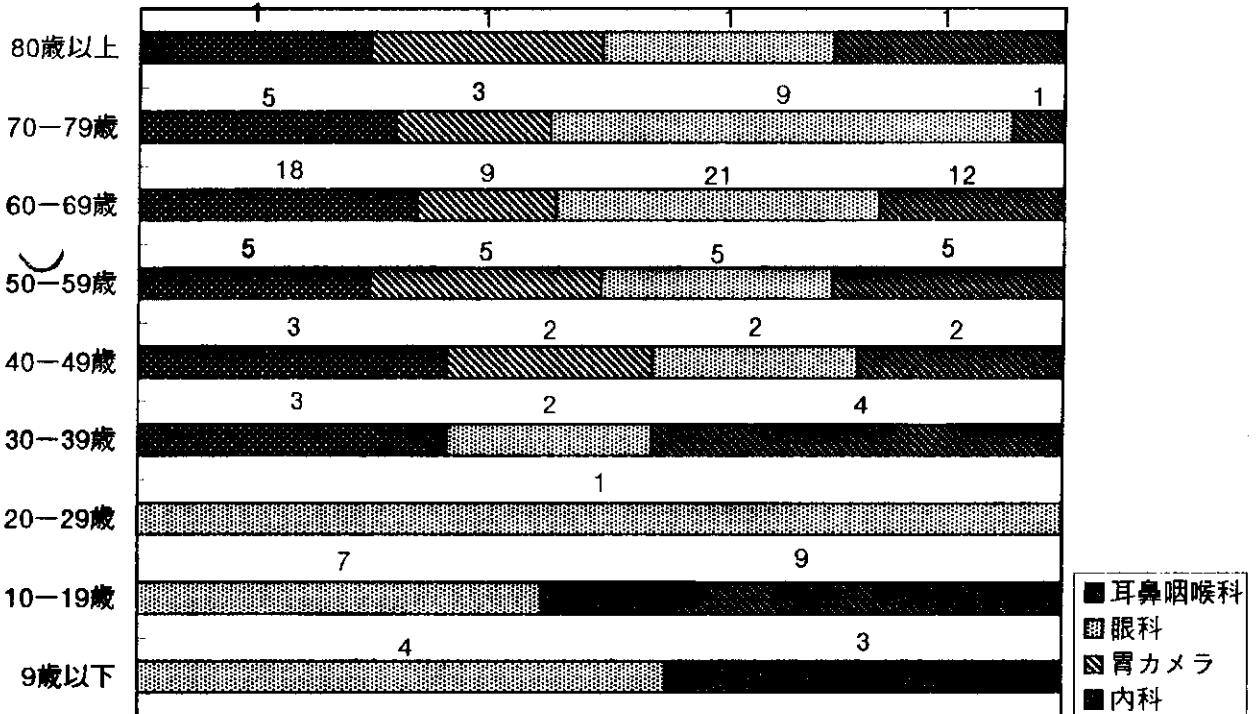


図5 科別有所見者数

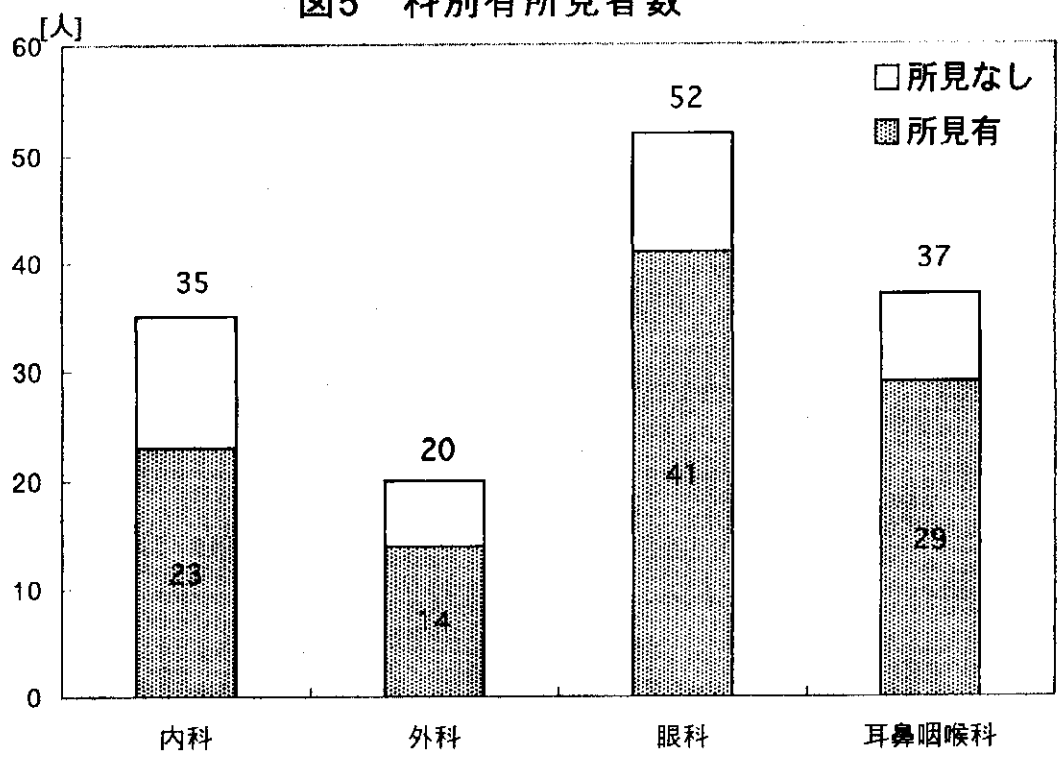




図6 年度別受診人数とのべ受診人数

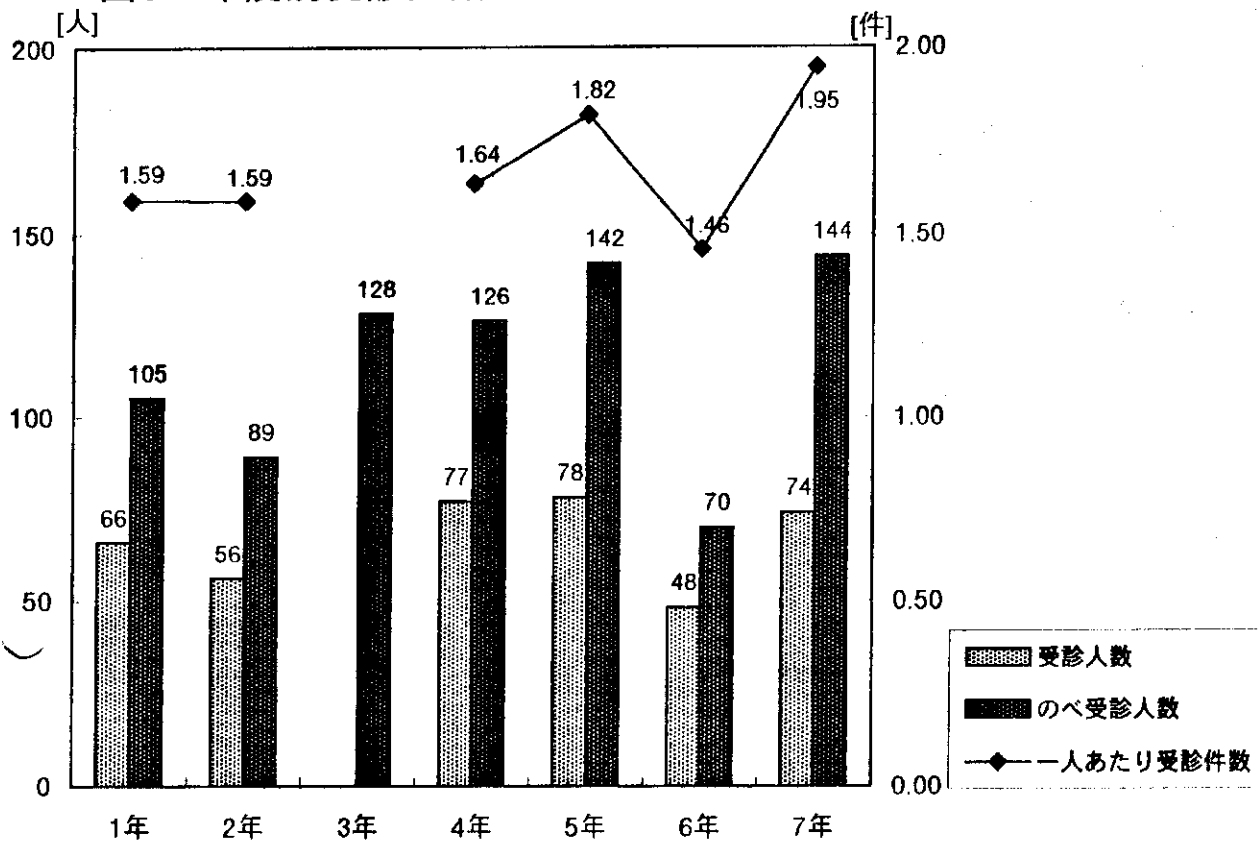


図7 年度別各科受診患者数

